

一

次の問いに答えなさい。

問一

各文の――線の漢字の読みを、それぞれひらがなで書きなさい。

① それはこの家の死し活くわ問題だ。

② 彼は直情径行ちけいけいこうの男だ。

③ 文化祭で輪唱りんしょうする。

④ 劇の配役はいやくを決める。

問二

各文の――線のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。

① アメリカタイリクを横断する。

② だいたいだいたいのケントウをつける。

③ 部下に方法をシジする。

④ 自宅のシュウヘンしゅうへんを清掃せいそうする。

⑤ 仕事でノウソンを訪れる。

⑥ マズしい人々に募金ぼきんをする。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

明治維新以後、日本人はアメリカ人やイギリス人が着ている洋服を着るようになりました。最初は天皇が西洋の軍服を着ました。次に男性の華族や役人や会社員たちが洋服を着るようになりました。女性は、天皇家の人々や華族たちが洋服を着ました。それはなぜでしょうか？^① 今、私たちは洋服の方が安くて楽だから洋服を着ますが、当時は洋服の方が高価で、決して楽ではなかったのです。その証拠に男性たちは勤め先から帰ってくるに着物に着替えてくつろぎました。勤めに出ない女性たちにはもっぱら着物を着ていました。天皇や政治家が率先し、服装の欧米化がおこなわれたのです。その傾向は戦後（一九四五）ますます強まり、女性たちも洋服一辺倒になって、今日に至ります。着物はほとんどの人が着ないので、今ではとても高価なものになってしまいました。

それは洋服の方が美しいからでしょうか？

A

今、ラオスやミャンマーに行くと、多くの男性が巻きスカートです。しかし都会ではジーンズをはく人も多くなっています。

②

的に見て、巻きスカートのの方がはるかに美しく、

B

、温度湿度の高い地域ではその方が楽に決まっています。にもかかわらず彼らはジーンズを「かっこいい」と思うからなのです。同じように、明治維新以後と戦後の日本人は、客観的には着物より不格好であっても、主観的には洋服の方が「かっこいい」と思い込んで着るようになりました。これがグローバリゼーションの一つの側面です。

C

、自国と外国のあいだに、価値の高低をつけたのです。欧米文化の価値は高く、日本文化の価値は低い、ということにしたのです。なぜかという、技術や政治のみならず生活まですべて欧米化すれば「世界に認められる」と考えたからです。冷静に考えれば、衣食住まで変える必要はありません。より良いと思える技術や政治手法は導入し、そう思えないものは導入せず、生活のしかたはそのままの良いわけです。

D

明治維新と戦後に起こったことは、都市の設計、建築物、エネルギー政策、衣類、食べ物に至るまで欧米化することでした。こうしないと世界中で生きて行かないからではなく、欧米社会の生活を「豊かさ」だと思い込み、そこに「幸せがあるはずだ」と考え、

中で生きて行かないからではなく、欧米社会の生活を「豊かさ」だと思い込み、そこに「幸せがあるはずだ」と考え、

それを目標にしましたのです。

③

これはまた、日本の側だけの事情ではありません。アメリカは小麦やミルクや肉や自動車や洋服生地やナイロンを売る市場を探していました。占領下に置いた日本は、ものを売る先として、もともと都合がよかったのです。そのようなアメリカの事情は現在でも同じです。今は、日本に米や保険や高度医療を売ろうとしています。

グローバリゼーションには長所と欠点があります。大量に製品を作ったり、広い土地で農業ができる国が、生産力の劣る国に大量に安く商品売ること、ものや文化の多様性が失われ、国の自立性が無くなります。また、軍事力の弱い国が強い国のあらゆる面を模倣し依存することで地球上の文化が多様性を失います。それらの点が短所です。明治以降の日本はその短所の方を選んでしまったわけです。戦後も、二〇一一年には貿易のさらなる自由化によって、また同じ選択をしました。

もう一度、江戸時代に戻ってみましょう。

※

羽織や着物や帯の事例で分かってきたと思いますが、戦国時代から江戸時代の日本人は、ポルトガル船やオランダ東インド会社船が運んできた衣類を、全面的に受け容れたわけではありませんでした。彼らが導入したのは「生地」でした。そこには暖かい素材、美しい色彩、面白い文様やデザインがあり、その面白さ美しさを採用しました。ついぞにズボンもシャツも取り入れてみましたが、シャツはあまり拡がらずズボンは部分的に採用されました。食べ物では、金平糖やカステラやどら焼きは江戸時代に入ると、とても一般的なお菓子になりました。

(中略)

江戸時代は中国、朝鮮、琉球、インド、インドネシア、ヴェトナム、カンボジア、南ヨーロッパ、北ヨーロッパなど、それぞれ異なる文化の影響を受けながらも、どこに偏るでもなく、必要なものをもらいながら、日本文化を作り上げていました。これを「内発的発展」と言います。「内発的発展」こそが、グローバリゼーションがもたらす長所です。

内発的発展とは、どこからも影響を受けずに閉じた空間で独自の発展を遂げることではありません。あらゆる情報を

獲得し、その場所の気候や自然環境や歴史や職業や今後の仕事の可能性に沿いながら、人々がうまく生活していけるように取捨選択して経済システムを作り上げてゆくことです。

自然環境を無視して技術だけを導入すると、とんでもないことが起こってきます。自然環境は人の力で変えられないので、それを無視すると大きな災害が起きたり、膨大なコストがかかったりするのです。そこから考えると、内発的発展に知恵を絞るのは、とても重要なことなのです。

(田中優子『グローバルゼーションの中の江戸』)

注 ※ 一辺倒Ⅱ方だけにかたよること、集中すること

※ グローバリゼーションⅡ国を超えて地球規模で交流などが拡大すること

※ 羽織や着物や帯の事例Ⅱ筆者はこの文章の前の部分で、日本独自のものと思われているものが、実は外国から取り入れた部分もあるということをいろいろと紹介している

問一

A

D

に入れる語として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア、また イ、つまり ウ、しかし エ、たとえば

問二

あ

に入る二字の言葉を本文中からぬき出して答えなさい。

問三

—— 線① 「それはなぜでしょうか」とありますが、その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、当時は着物より洋服の方が高価で立派に見えたから。
イ、家に帰ってから着物に着替えるのがめんどうだから。
ウ、洋服の生地や色彩などが着物よりすぐれていたから。
エ、欧米のまねをして世界に認めてもらおうとしたから。

問四

—— 線② 「これ」の指す内容として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、豊かな欧米社会の生活を目標にしたこと。
イ、日本におけるグローバルゼーション。
ウ、欧米文化の価値が日本より高いということ。
エ、よいと思える技術や政治手法だけ導入したこと。

問五 ——— 線③「長所と欠点」とありますが、

- (1) 筆者が「長所」として表現した五字の言葉を本文中からぬき出して答えなさい。
- (2) (1)で答えたものを分かりやすく五十五字以内で説明しなさい。(句読点も字数にふくみます)
- (3) 「欠点」を説明した次の文の(Ⅰ)～(Ⅳ)に適当な言葉を補って、文を完成させなさい。ただし、いずれも三字で、本文中からそれぞれぬき出して答えなさい。

(Ⅰ)～(Ⅱ)で劣る国が、それらの強い国からの影響を受けることで、国の(Ⅲ)がなくなり、地球上の文化が(Ⅳ)を失うこと。

問六 本文には次の文がぬけています。この文が入るところの直後の五字をぬき出して答えなさい。
(句読点も字数にふくみます)

たとえば森林に恵まれているのに木材を外国から輸入して森林崩壊になるとか、雪で倒れることがわかつている高山に杉を植えるとか、湿度が高いのにそれを吸収できない建築材料を使うとか、地震が多い国土に原子力発電所をたくさん作るなどは、実際に日本がやってきたことです。

問七 次に示すのは、四人の生徒が本文の内容について話したものです。本文の内容を正しくとらえているものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア、生徒A——本文によると、明治時代と江戸時代でのグローバル化は全く異なっていて、江戸時代のグローバル化のほうが良い形だと言っているよね。

イ、生徒B——江戸時代は関係ないでしょ。この文章は、確かに明治維新で失ったものはあるけれど、欧米化によって世界に認められるきっかけとなった重要な時代だと言っていると思うな。

ウ、生徒C——いやいや。江戸時代のように、外国のものをすべて受け入れるのではなく良いと思うものを取り入れて自分たちの文化にしていこうにすべきだったと筆者は主張しているのよ。

エ、生徒D——そうそう。江戸時代の鎖国のようにできるだけ閉じた空間で独自の発展を遂げることを筆者は「内的発展」と言っていて、そこに知恵を絞ることが、とても重要だと本文では述べられているよね。

三

野鳥を保護することは禁じられていますが、「里津子」は、けがをしたカラスを目撃し、思わず保護しました。家へ連れて帰ると、息子の「陽一」はカラスに「ジョンソン」と名づけ、世話を始めます。一方、「里津子」と「陽一」が住むアパートの人々は、カラスを害鳥として駆除しようとしています。次の文章は、「ジョンソンの鳴き声で、アパートの人々に、カラスの存在が知られてしまうのではないかと警戒する場面の続きです。文章を読んで、後の問いに答えなさい。

昼間だというのに、内側からドアチェーンがかけられていた。

陽一はやはり部屋にいた。

里津子は感情を押し殺した声で何度か呼びかけた。すると台所の陰から陽一が観念した顔で現れた。ドアは一度閉められ、もどかしい音とともにチェーンがはずされた。

一瞬、手が出そうになった。

乱暴な言葉も飛び出そうだった。

だが、その資格があるのかという問いかけが里津子を抑えこんだ。

陽一がなぜ学校をずる休みしたのか、その理由は明らかだった。

ジョンソンのためなら、それを連れてきた自分にもっと大きな責任がある。

原因は母である里津子が作ったのだ。なにもかも、今、陽一を取り巻いている状況はすべて里津子が作りだした。

「ごめんなさい」

陽一の手には洗剤の泡がついていた。詫びて頭を下げるときに、その泡も落ちた。

使ってもいない箸を毎日洗っていたのだろうか。

「お箸、毎日洗っていたの？」

「うん、洗った」

「なんで？」

わかっているのに里津子は聞いた。

「だって……」

陽一の声をもつれた。べそをかく寸前らしい。

「使っていないってばれたら、学校行っていないってわかっちゃうから」

「じゃあ、昼はなにを食べていたの？」

陽一は返事をしなかった。

「ね、なにを食べていたの、陽ちゃん」

「食べてない」

泣くまいとしているのか、陽一は唇を真 A 文字に結んだ。

「陽ちゃん、ばかね。なにも食べずにお箸やフォークを毎日洗っていたの？」

「だって」

「だって？」

「ジョンソンが鳴いたら……殺されちゃう」

「陽ちゃん、一週間ずっとジョンソンの横にいたの？」

「うん」

名前を呼ばれたためか、ジョンソンが段ボールの箱のなかでがさがさ暴れ始めた。陽一は箱のふたを取ろうとして、しかし足を止めた。下から見上げるように里津子の B をうかがっている。

里津子はゆっくりと陽一に近づいていた。

さつきまで思い切り手が出そうだったのに、手のひらは陽一の頭に柔らかく落ちた。

「ごめんなさい」

陽一がまた頭を下げる。里津子は坊主刈りのその頭を撫でる。

「陽ちゃん」

「うん」

「嘘をついたことは良くないけれど……そんなに頑張っていたなんて、お母さん、気がつかなかった」

「先生にばれたの？」

「ばれたからお母さんが来たんじゃない」

「どうしよう、俺」

里津子は陽一の肩に手を回してぐつと引き寄せた。

「ジョンソンはもう、今夜放しに行きましょう。お母さん、カラオケの仕事は休むから。それで明日、先生のところにいつしよに行こう。お母さんもいつしよに謝る。陽ちゃんは洗いざらい本当のことを先生に話しなさい。お母さんもちゃんと話す。作り話より、その方がきつとわかってくれると思う」

「うん。でも……」

がさがさ音のする段ボール箱を陽一が見た。

「今夜から生きていけるかな、ジョンソン」

「生きていけるよ。もう傷も治ったんだし」

「どこに放すの」

「それは今から考えよう。お母さん、今日はお昼ご飯作るよ」

里津子は工場に電話すると、今日はもう再出社できないことを伝えた。電話に出たのは総務の男性社員で、はつきりと叱られた。早退を許しているのだから、こういうことが重なるようであれば契約を見直すと言う。「申し訳ありません」

「ん」と里津子は繰り返し、受話器をそつと置いた。

それから冷蔵庫を開け、なかにあるものを確かめた。

清掃員のユニフォームの袖をまくり、台所に立った。

陽一の洗った箸とフォークが水切りに並んでいる。

③ それをまっすぐに見られず、里津子は一度目を離れた。そのまま流しの縁を握り、今度は目をつぶった。

焼きそばと目玉焼きが昼のメニューになった。

陽一は皿に半分ほど残した。

C

。先生に謝らなければいけないこと。協力してくれた友達もいつしよに叱られるであろうこと。この三つで胸がいっぱいなのだという。たしかにそうだろうと思う。四十歳の里津子でさえ同じなのだ。ジョンソンのことはともかく、担任への弁明を考えると焼きそばを作りながらも胸が苦しくなった。

元気に食べているのはジョンソンだけだった。

陽一がちぎった二本の竹輪をあつという間に平らげてしまった。

それからクアーツと大きく鳴き、天井に直接頭をぶつける飛翔を見せた。

問一 〜〜線①「観念した顔」、②「もどかしい」、③「洗いざらい」の意味として最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 「観念した顔」

- ア、集中して考えぬいた顔
イ、失敗した自分を恥じている顔
ウ、覚悟して状況を受け入れた顔
エ、大切なことを悟った顔

② 「もどかしい」

- ア、経過がこみいっていて、複雑だ
イ、手に負えなくて、たいそう困る
ウ、不思議で、合点がいかない
エ、思うようにならず、いらいらする

③ 「洗いざらい」

- ア、すべて
イ、詳しく
ウ、明快に
エ、堂々と

問二 A、B に入れるのに最も適当なものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア、一 イ、十 ウ、百 エ、目 オ、気 カ、顔

問三 〓線X「なにもかも」が意味上かかっていく語句を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

X
なにもかも、今、陽^アを取り巻いている 状況^イは、すべて 里津子^ウが 作り^エだした。

問四 〓線①「感情」とありますが、どのような感情ですか。二十字以内で答えなさい。
(句読点も字数にふくみます)

問五 〓線②「手のひらは陽一の頭に柔らく落ちた」とありますが、このときの「里津子」の気持ちを四十五字以内で答えなさい。(句読点も字数にふくみます)

問六 ――線③「それをまっすぐに見られず、里津子は一度目を離した」とありますが、それはなぜですか。理由を説明した次の文の（Ⅰ）、（Ⅱ）に適切な言葉を補って、文を完成させなさい。ただし、（Ⅰ）は十字、（Ⅱ）は十四字で、それぞれ本文中からぬき出して答えなさい。（句読点も字数にふくみます）

陽一が昼食を食べずに（Ⅰ）という行動の原因を考えると、（Ⅱ）から。

問七

C

 に入れるのに適当な語句を十五字以内で答えなさい。

問八 次に示すのは、四人の生徒が本文について話したものです。本文の内容を正しくとらえているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、生徒A ― 「里津子」は、料理を手早く作っているし、たくさん仕事をこなしているらしい。誰からも頼りにされていることがよく分かるよ。

イ、生徒B ― 「里津子」は「陽二」のことを大事にしているね。「陽二」が家で過ごすことで昼食がないのを知って、かわいそうだからと、仕事を休んで家に帰ってきているんだ。

ウ、生徒C ― 「陽二」は、「ジョンソン」を守ろうとして必死になって頑張っているね。「ジョンソン」が元気になって自然に帰れるように、一週間ずつつきそっていたんだよ。

エ、生徒D ― 「ジョンソン」は、近くに「陽二」がいると静かにしていることや、自分の名前に反応していることなどから、この家族になじんでいると考えられるね。

